

まんが 子ども太平洋戦争物語

炎に消えた あかつき号

画・守谷哲己

この物語の背景もの がたりとなったおもなできごとはい けい

1931年（昭和6年）
満州事変まんしゅうじへんが起こる。

1933年（昭和8年）
日本が国際連盟こくさいれんめいを脱退だつたいする。

1937年（昭和12年）
日中戦争にっちゅうせんそうが始まる。

1939年（昭和14年）
第二次世界大戦だいにせかいたいせんが始まる。

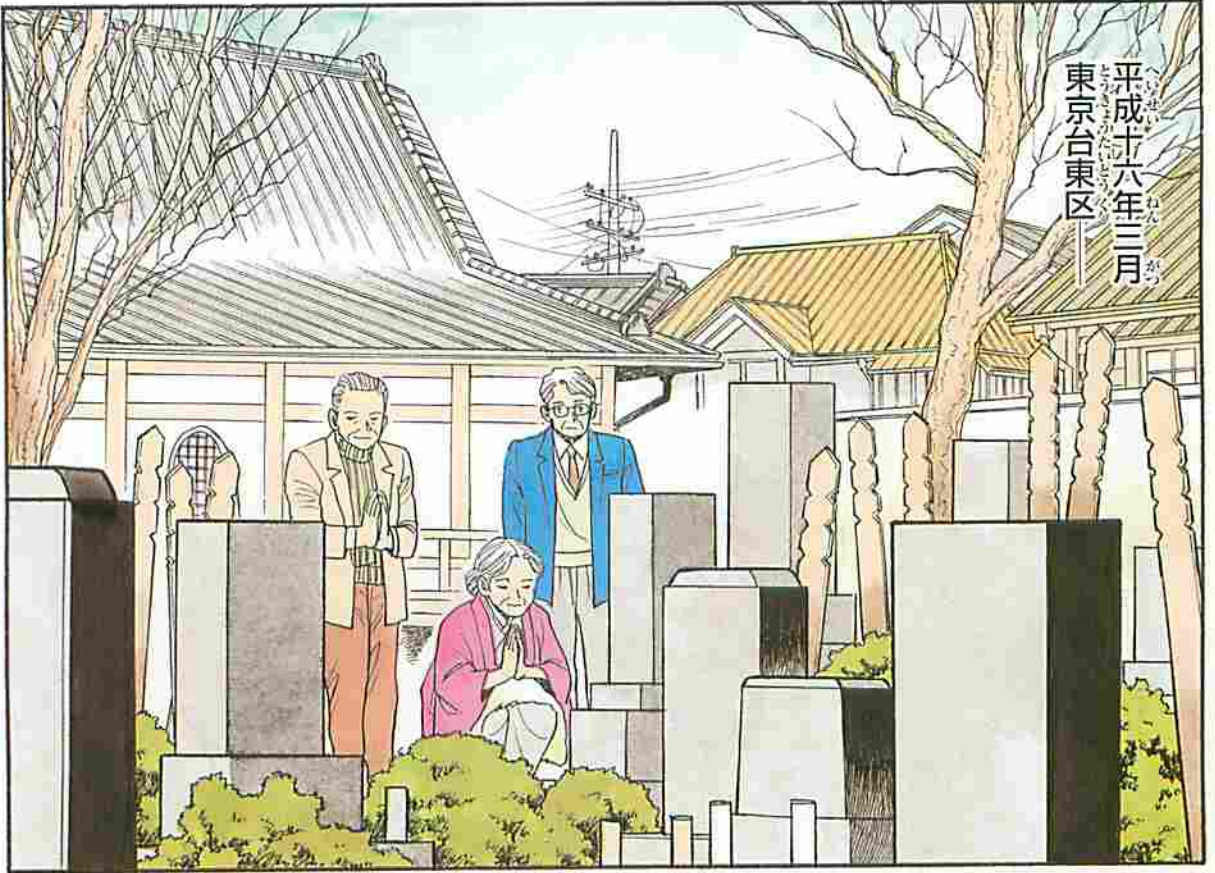
1941年（昭和16年）
太平洋戦争たいへいようせんそうが始まる。

1942年（昭和17年）
日本本土にほんほんどがはじめて空襲くうしゅうされる。

1945年（昭和20年）
東京とうきょうなどが大空襲だいくうしゅうにあう。

広島・長崎ひろしまながさきに原子爆弾げんしはげくだんが落とされる。
日本はポツダム宣言ポツダムせんげんを受け入れて降伏こうぷくする。

平成十六年三月
東京台東区



今年は
春が遅いな

そう
寒いわ

来年でもう
六十年か

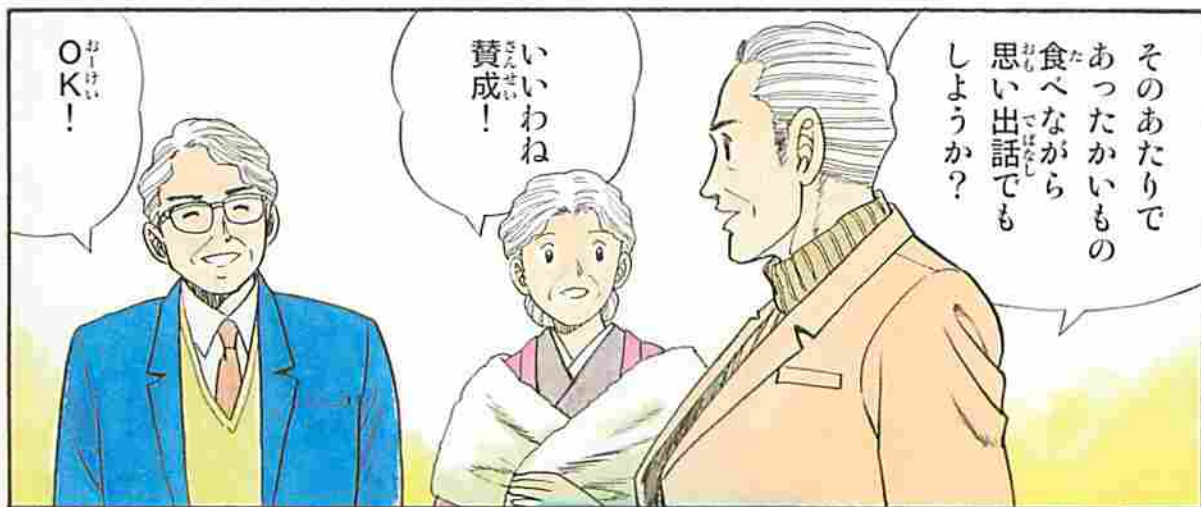
わたしたちも
年寄りにな
るわけだ



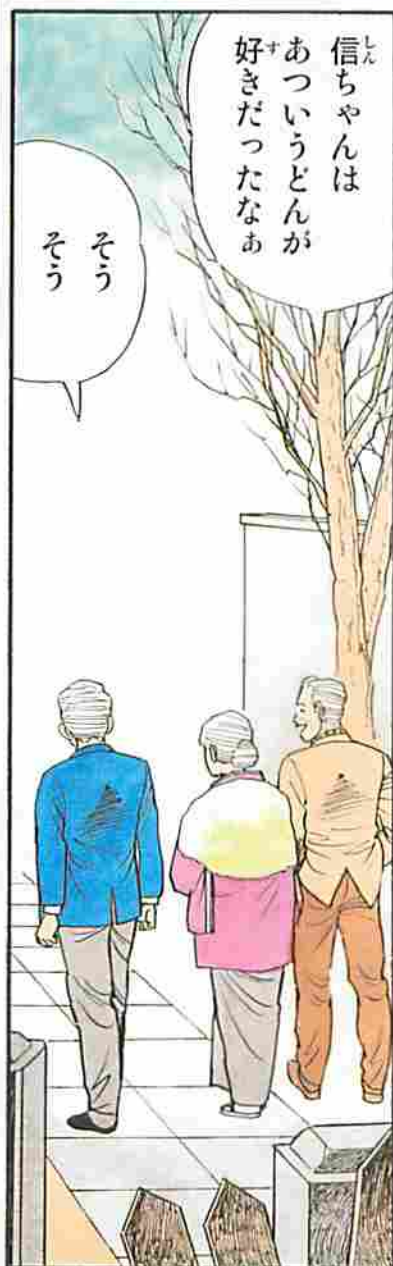
信ちゃん
少年のまま
だな

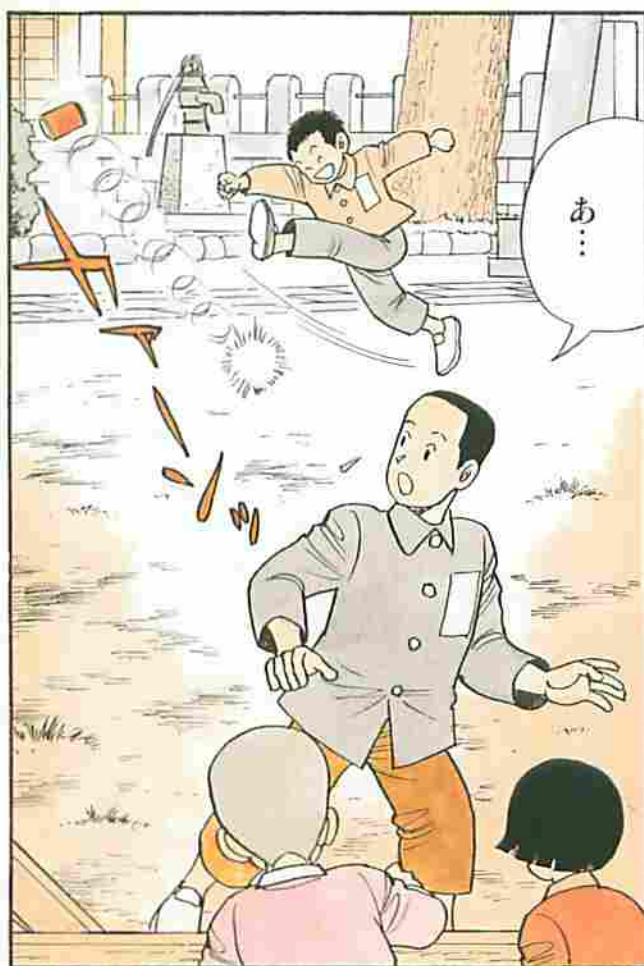
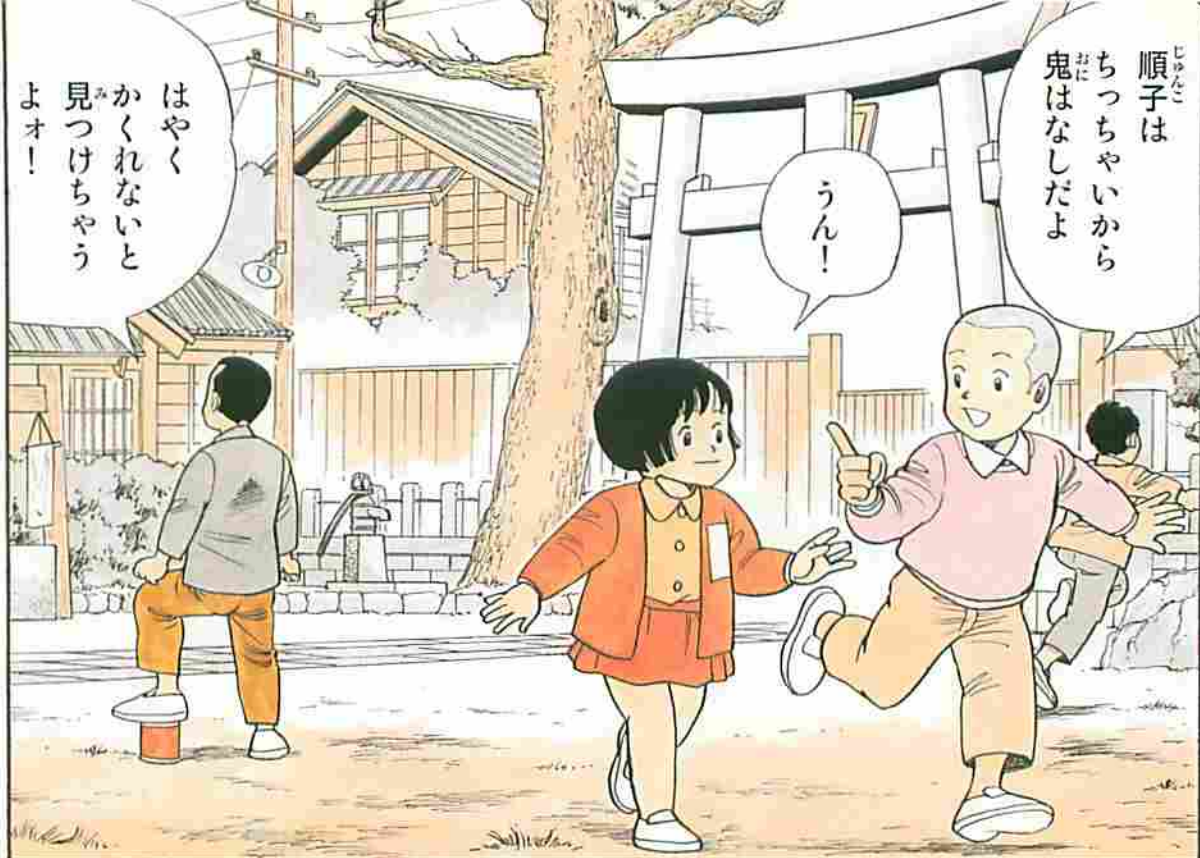
ん…
あの頃が
なつかしいな

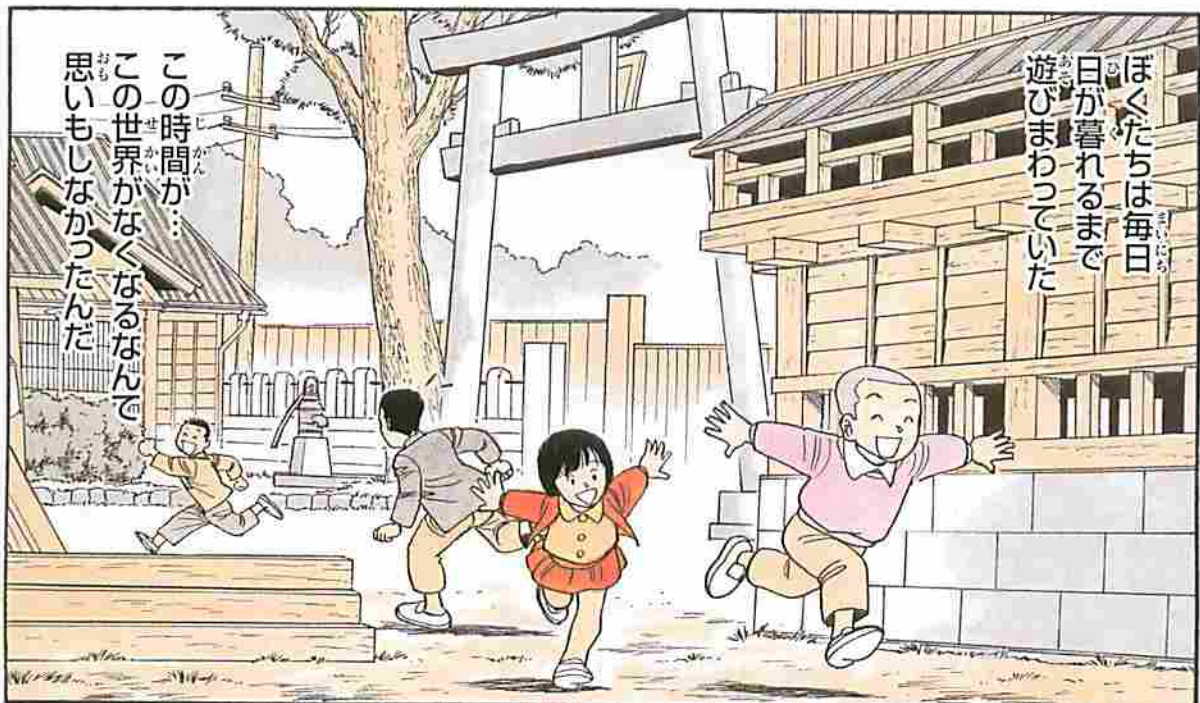




昭和十七年東京下谷区(いまの台東区)





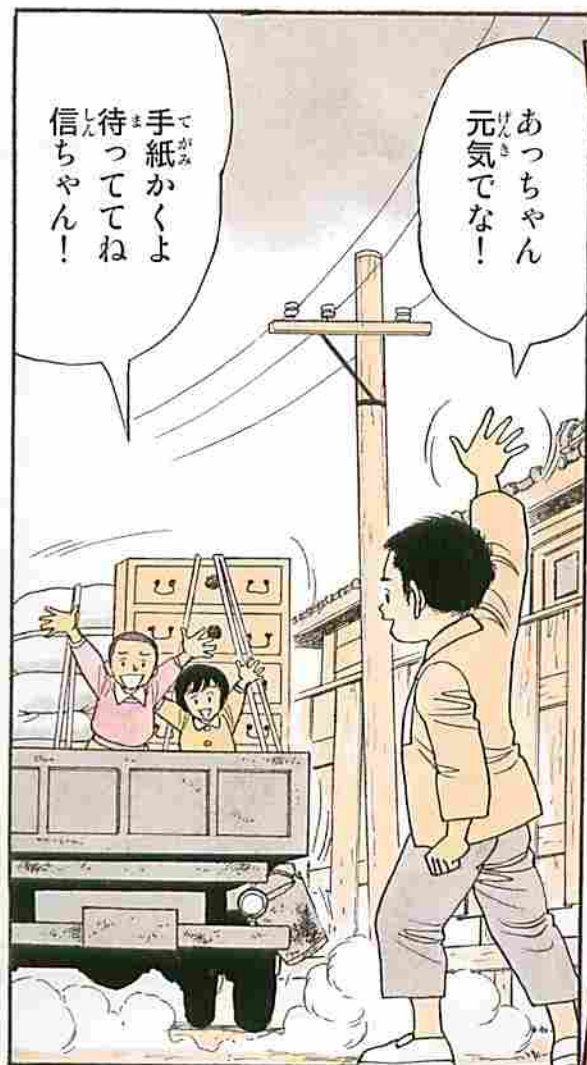


ぼくたちは毎日
日が暮れるまで
遊びまわっていた

この時間が……
この世界がなくなるなんて
おもひもなかったんだ



昭和十八年三月
戦争が激しくなり
うち(後藤家)と
たつちゃんち(大林家)が
疎開のため引越すことになった

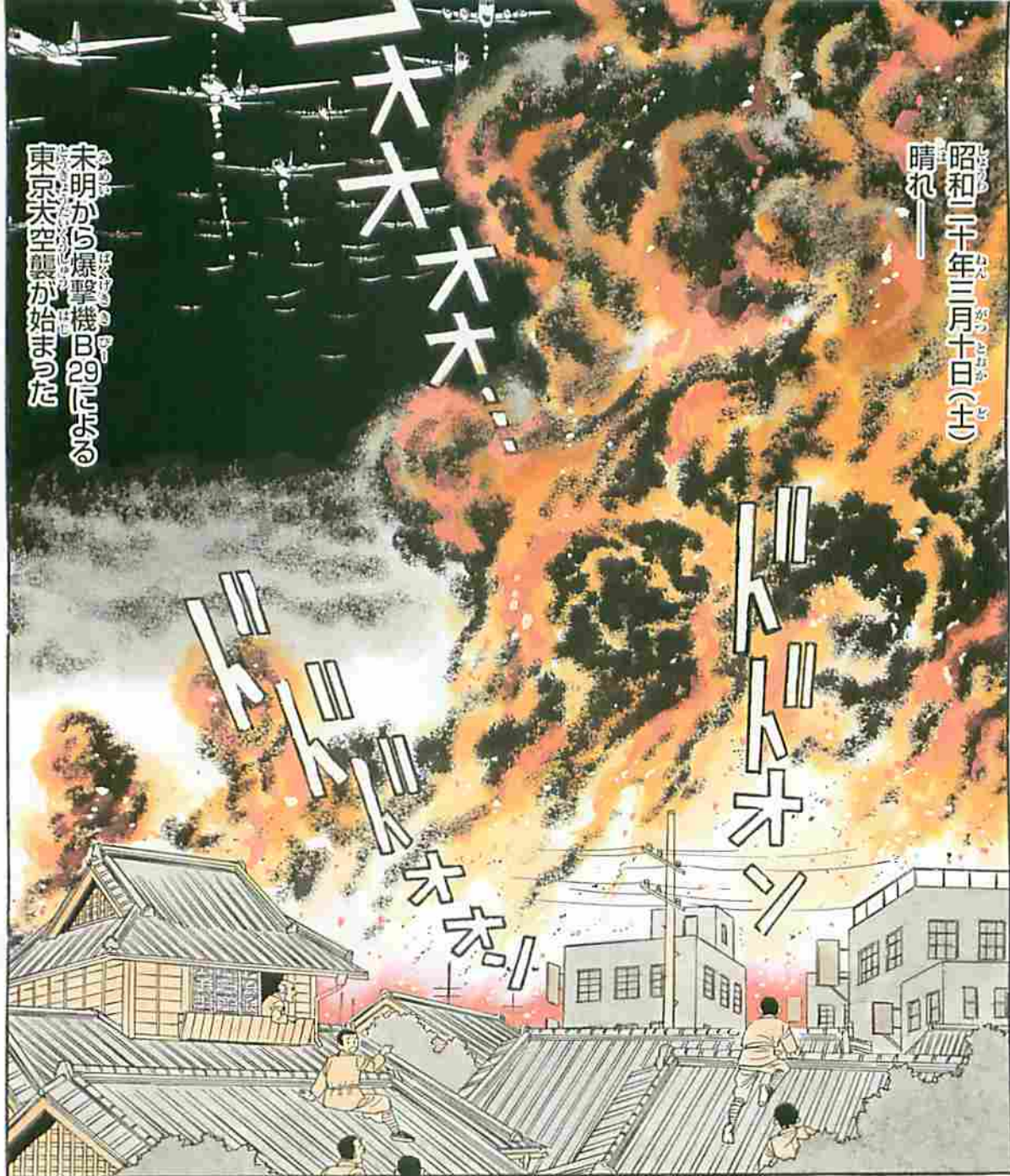


あつちゃん
元気だな!

てがみ
手紙かくよ
まってね
待っててね
しんちゃん!

昭和二十年三月十日(土)
晴れ

未明から爆撃機B29による
東京大空襲が始まった



東京大空襲

昭和二十年三月十日、午前〇時八分、米軍の大型爆撃機B29が東京上空に來襲し、約二時間にわたって本所・深川地区(現在の墨田・江東区)を爆撃しました。多量の焼夷弾が、にげまどう人々のまわりに円をえがくように投下され、東京の下町は一夜で焼け野原と化しました。

この東京大空襲の被害は正確にはわかっていませんが、百万人以上もの人が家を失い、八〜十万人もの死者が出たと言われています。戦火からのがれた人々は、後に「東西南北どこを見てもすべて燃えていた」と悲惨なようすを語っています。



▲B29のばらまいた焼夷弾があちこちで火をふいた

この空襲により
下町の江東区を中心に
約二十七万戸の家屋が
火に包まれた



きやああ
火があ

あついつ



信ちゃん……
中村信吾も
この日死んだ

死者八万人以上
大半は非戦闘員の
女性や子どもばかり
だった



焼けあとでの生活

空襲の後には銭湯の浴そうや工場のえんとつなど、コンクリートでつくられたものだけが残され、多数の家が焼失しました。

このため多くの人は、焼け残ったトタン板を利用した「バラック」や、防空壕を住居にした「壕舎」で不自由な生活をおくるしかありませんでした。昭和二十年五月の東京には、このような住居で生活する都民が二十四万人もいたそうです。

また空襲で家も両親も失った子どもたちの多くは「浮浪児」とよばれ、たばこの吸い殻を拾って売ったり、くつをみがいたりして、必死に生きていました。

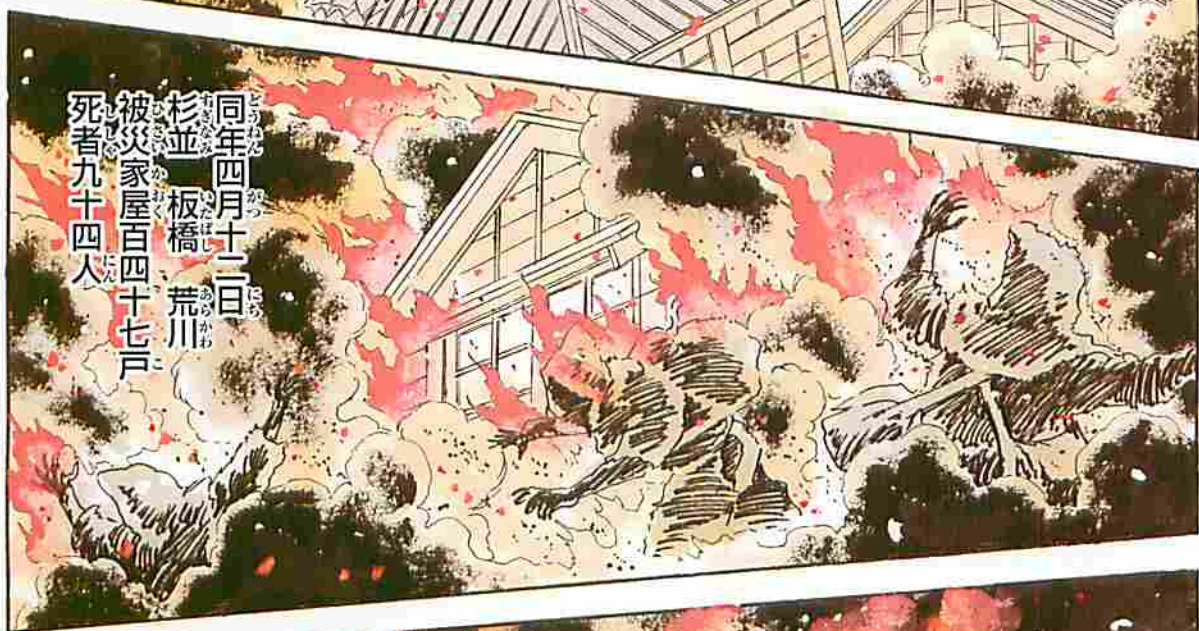


▲焼け残ったものでつくった家

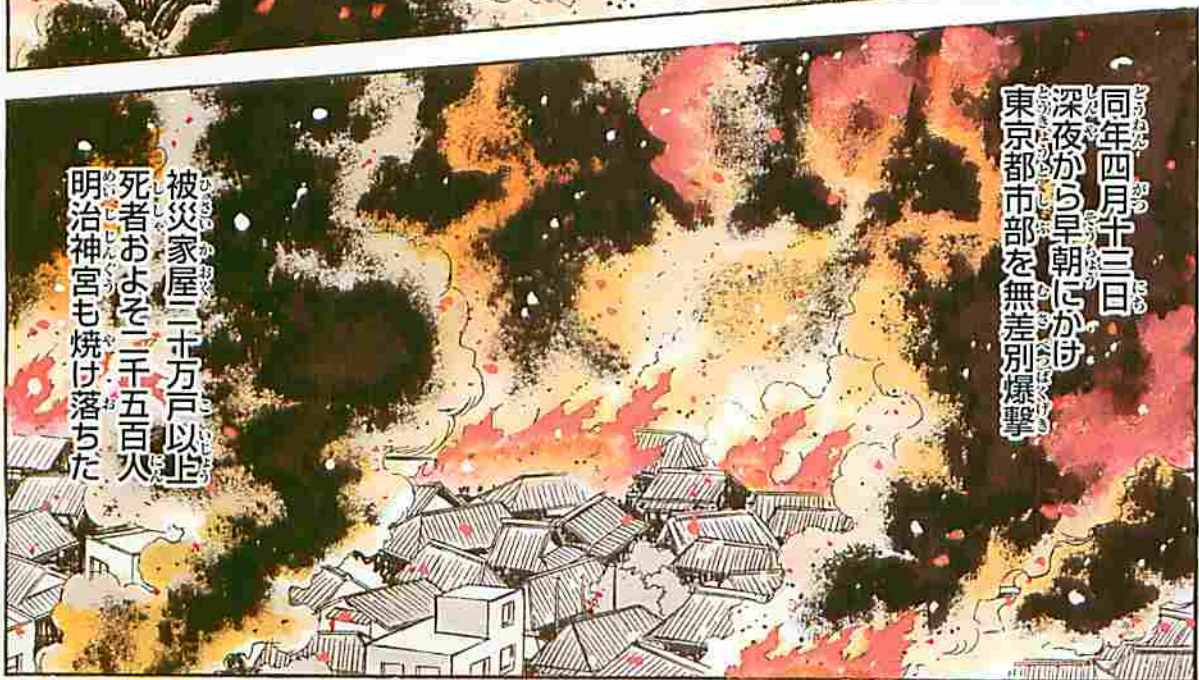


昭和二十年四月一日
三多摩地区 板橋 杉並
夜間空襲

被災家屋二百二十五戸
死者二百二十四人



同年四月十二日
杉並 板橋 荒川
被災家屋百四十七戸
死者九十四人



同年四月十三日
深夜から早朝にかけて
東京都市部を無差別爆撃

被災家屋二十万戸以上
死者およそ二千五百人
明治神宮も焼け落ちた



まったく：
ちかごろは
敵のやりたい
放題だ

味方の飛行機なんぞ
ちっとも見かけなく
なったじゃないか



そうか

空襲で
焼け出された
人たちにまわった
んだらうな



あれ？
味噌汁は
ないのか

すみません
配給がない
んです



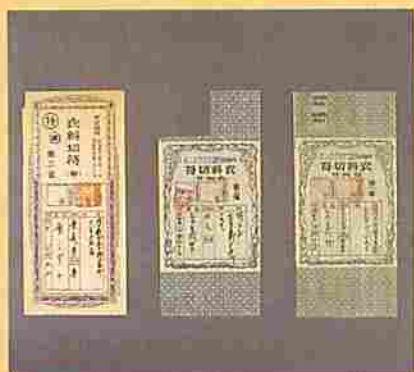
しょうがない
うちはまだ
家があるから
な

いつまで
あるのか：

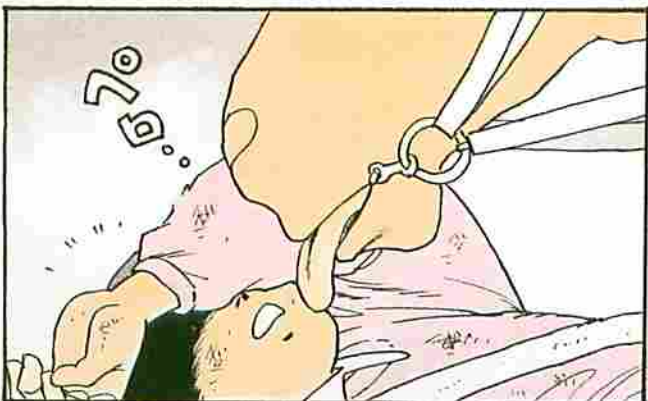
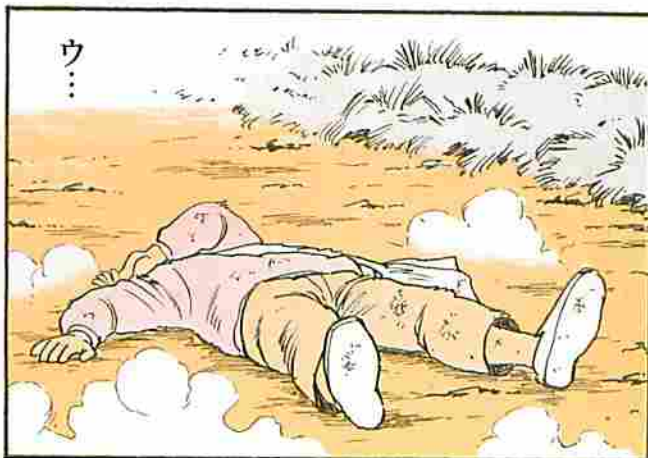
配給

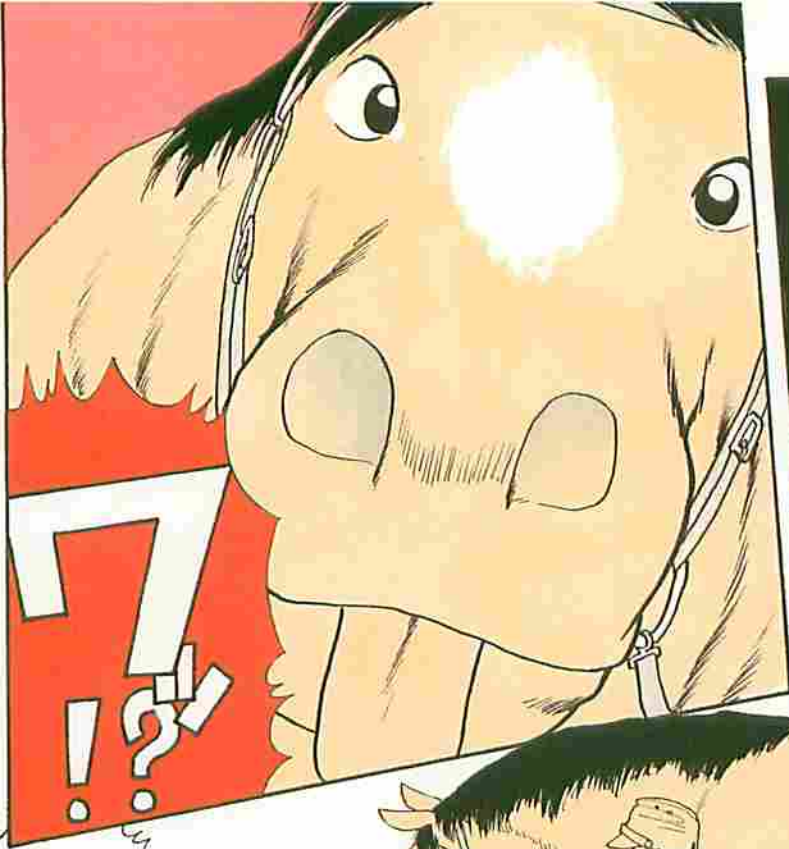
戦争がはじまると農家の男性の多くが軍隊に入ったり、軍需産業にかり出されたりしました。このため農村は人手不足となり、農作物の生産量も激減しました。さらに外国にたよっていた物資も次第に輸入できなくなりました。

そこで導入されたのが配給切符制です。これは世帯単位で配られる切符と引きかえに商品を買うしくみで、砂糖やマッチをはじめ、米、小麦粉など、生活に欠かせない品物のほとんどが配給制になりました。しかし一度に手に入る量は限られ、その回数も十分ではありませんでした。



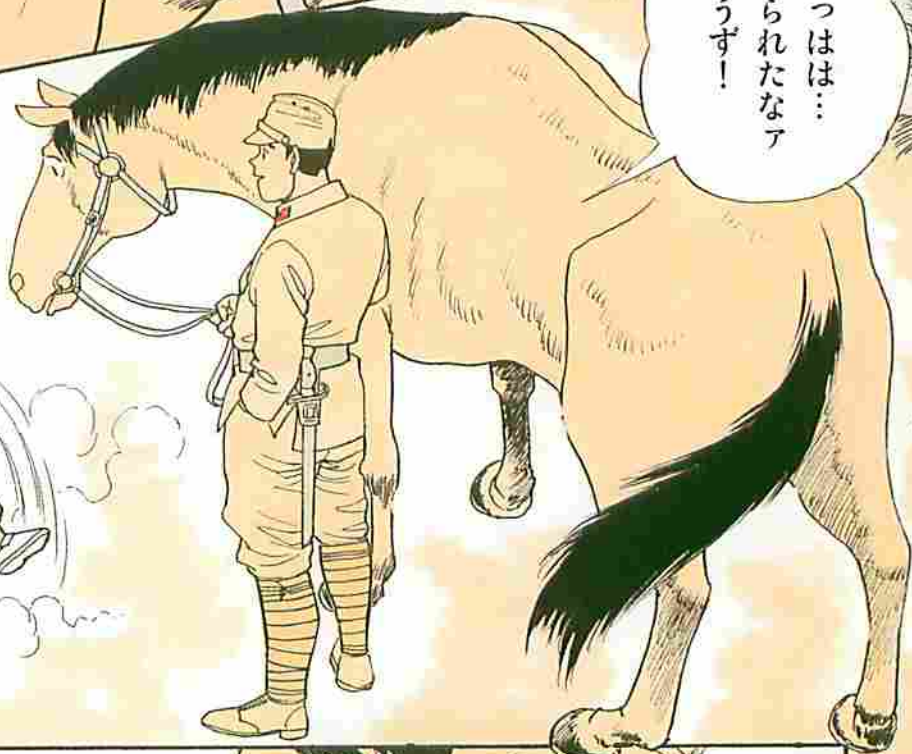
▲配給切符がないと着る物も買えなかった





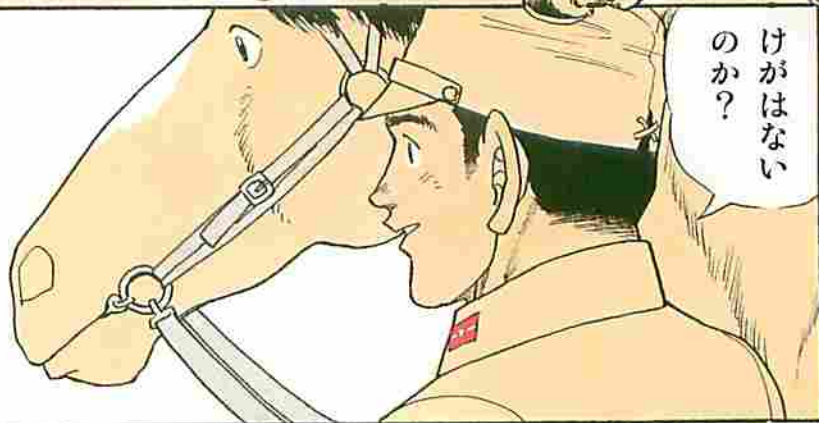
はっはは…
やられたなア
ほうず!

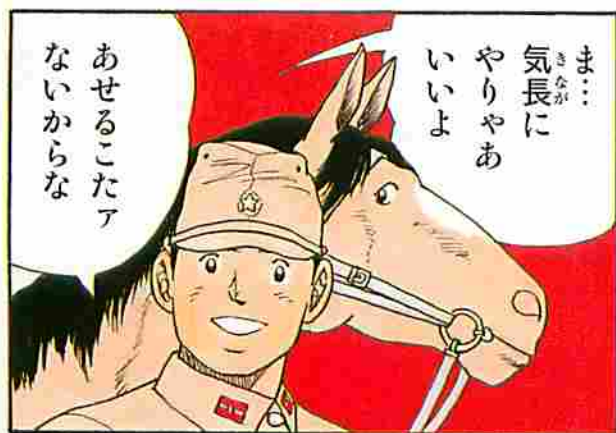
わわっ!?



けがはない
のか?

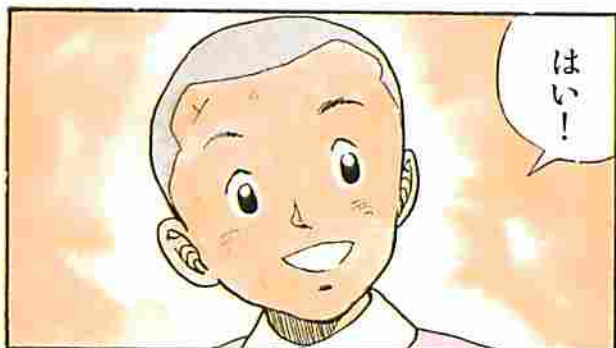
はい!





あせるこたア
ないからな

ま…
気長に
やりやあ
いいよ



はい!



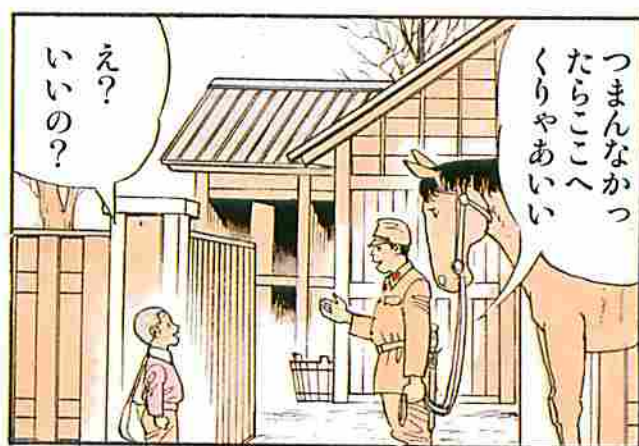
なるほど
下谷から
転校してきて
学校の仲間と
うまくいって
いないのか

うん…



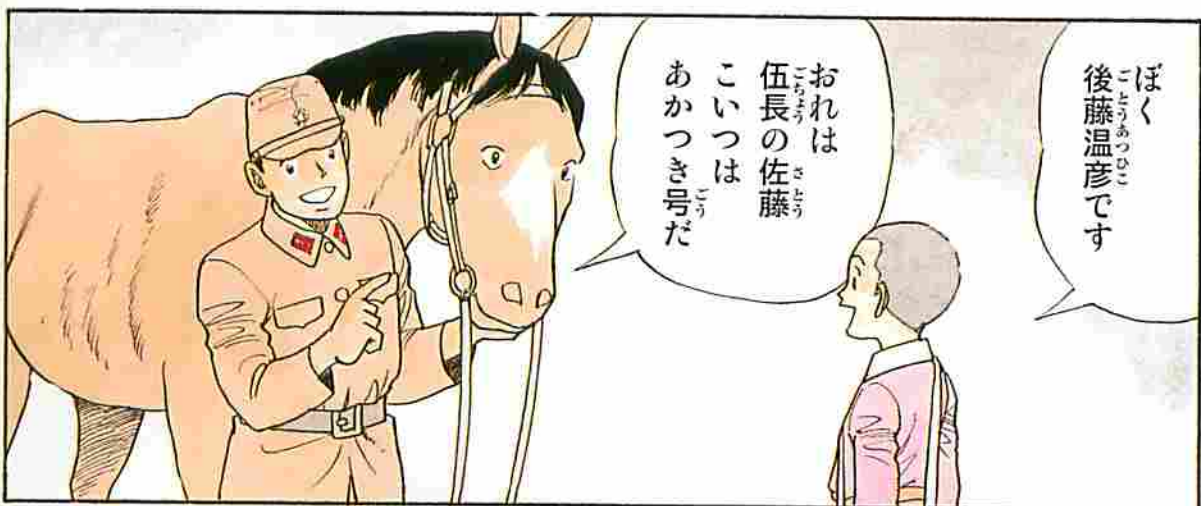
ああ

おれがいる
ときならな



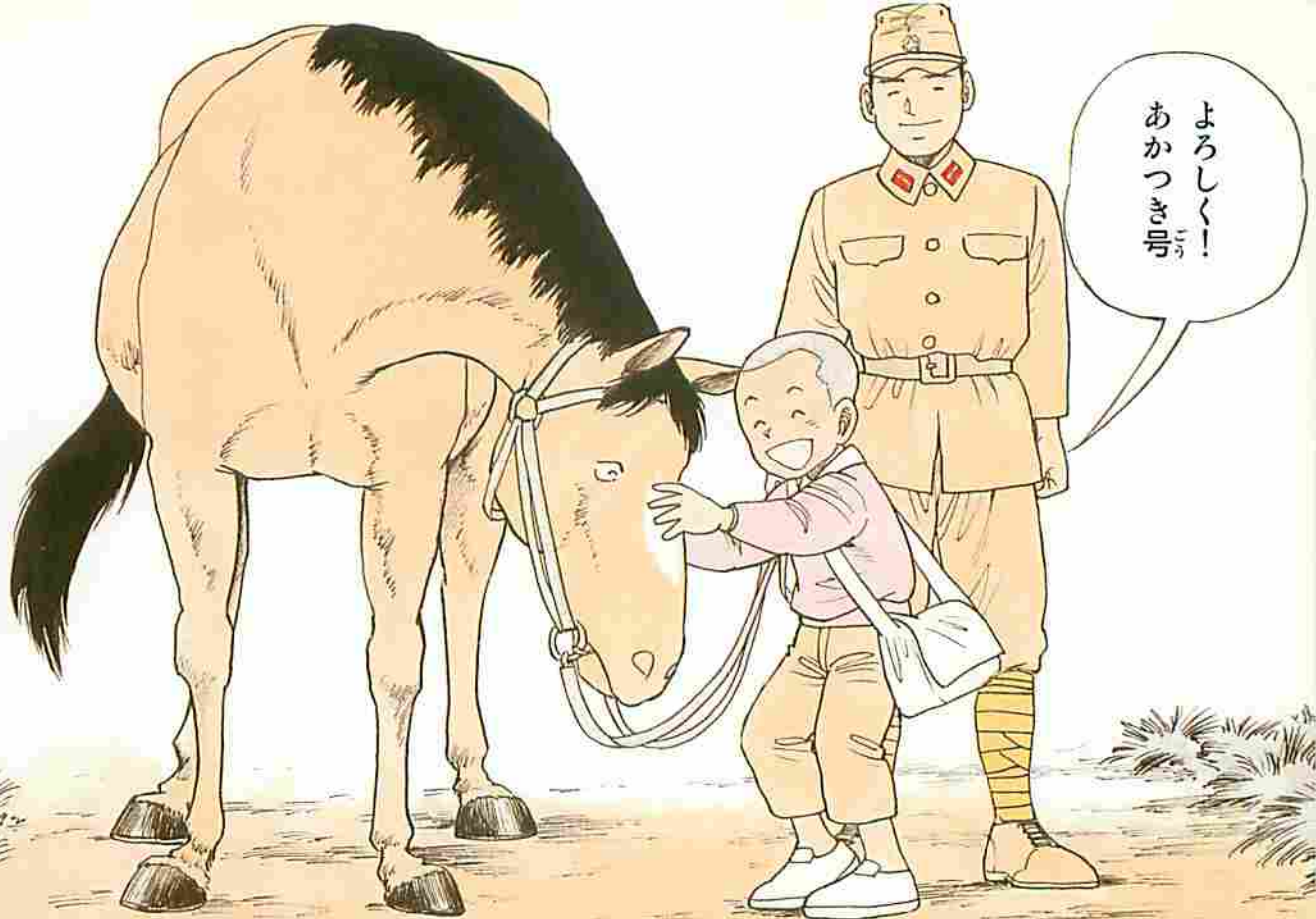
つまんなかつ
たらここへ
くりやあいい

え?
いいの?

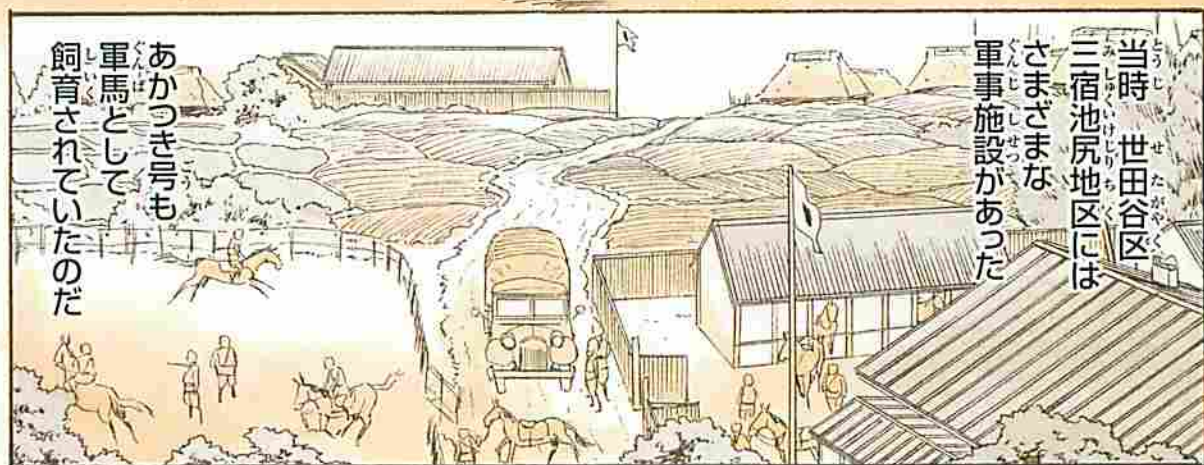


ぼく
後藤温彦です

おれは
伍長の佐藤
こいつは
あかつき号だ



よろしく!
あかつき号



当時世田谷区
二宿池尻地区には
さまざまな
軍事施設があった

あかつき号も
軍馬として
飼育されていたのだ

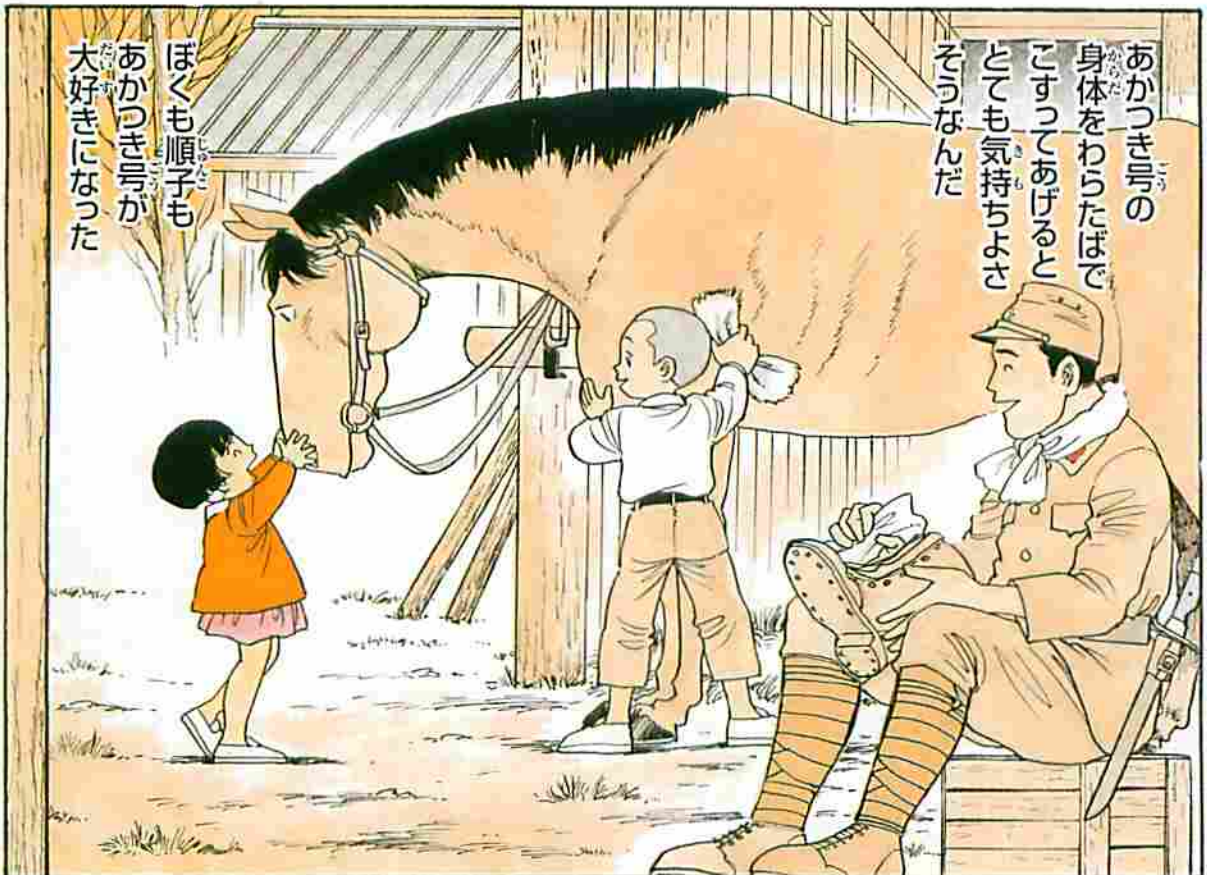
世田谷の軍事施設

明治二十四年、騎兵第一大隊が移ってきたのをきっかけに、東京の世田谷には次々と軍事施設がおかれました。各隊は軍馬を飼っていたため、馬小屋があちこちにあり、馬ふんは近くの農家で肥料として利用されてきました。しかし収めなければいけなかったうえ、軍馬のエサとして干草も供給しなくてはいけなかったため、近くの農家にとっては大変な負担でした。

世田谷の空襲では軍事施設を中心に大きな被害をうけました。現在これらの跡地には、学校や公営住宅、病院など、公の施設が建っています。

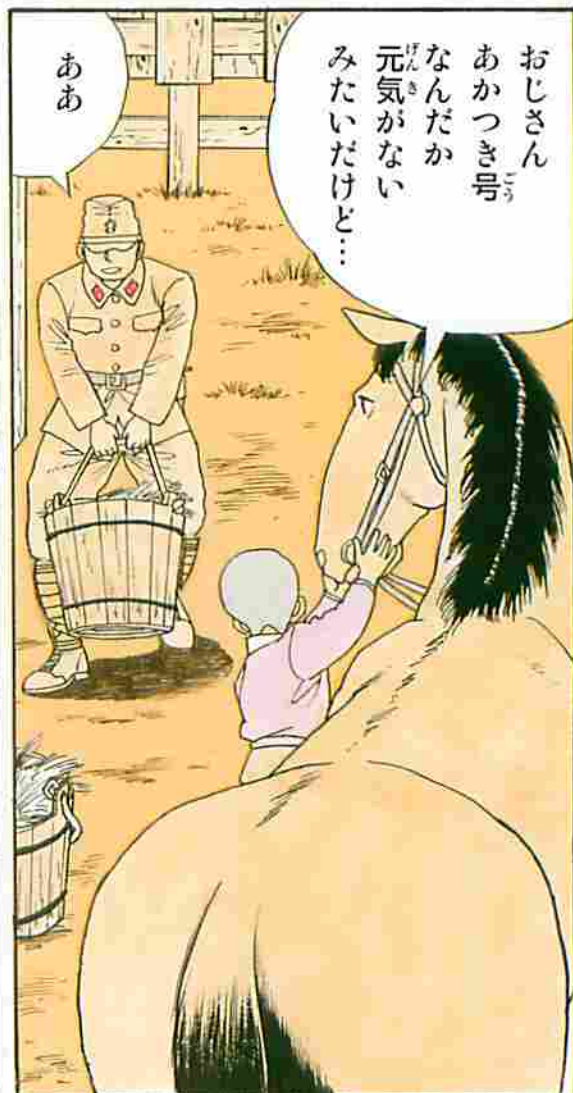
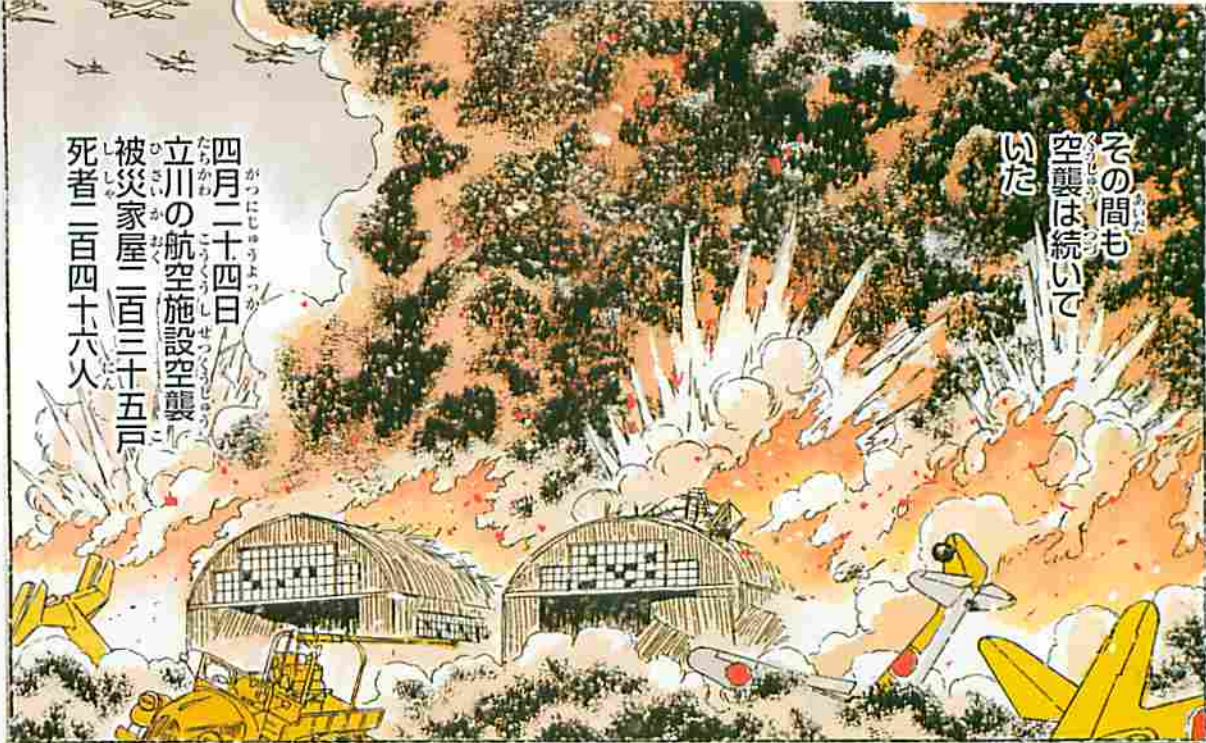


▲世田谷区にあった陸軍の建物



その間も
空襲は続いて
いた

四月二十四日
立川の航空施設空襲
被災家屋二百二十五戸
死者二百四十六人





いい友達ともだちが
できてよかった
なア

こオーんなに
おつきいんだけど
とオつても
やさしいんだよ

ほんと
あかつき号こうって
かわいいんだよ!

あかつき号こう
おなかって
あったかいのよ



わああ
お母さん
ありがとう!

知り合あいの
農家のうかに聞いて
あげるわね

いまは
ないけど…

ねエ
ニンジン
食べさせて
あげたいんだ
ある?



▲毎号のように決戦食の特集がのった

食料難 しきりょうなん

戦争がはげしくなるにつれて、食料はますます手に入りにくくなりました。そこで政府は家庭で野菜をつくるよう呼びかけました。食べ方も火にかけたり、細かく切ったりしないで、生でそのまま食べるのが一番よいとされ、人々はなるべく栄養や量を減らさないよう工夫していました。

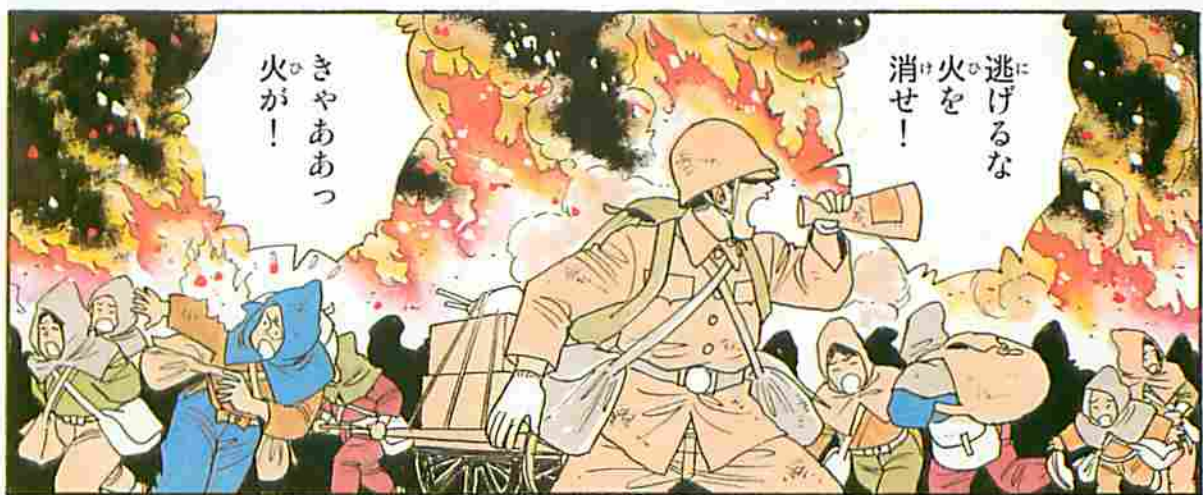
またビタミン類を補うため、野菜の皮や葉はもちろん、野草も食べていました。こういった食事は「決戦食」と名づけられ、当時の雑誌や新聞には「捨てていたものの食べ方」や「野草を食べよう」といった食料難を切りぬけるための記事が、競うようにのっていました。



五月二十四日

ぼくたちの住んでいた世田谷、渋谷、杉並、目黒、大森、品川地区にもB29が三千六百トンの焼夷弾を投下した

被災家屋六万户以上、死者七百六十二人



逃げるな
火を
消せ!

きやああつ
火が!

警戒警報と空襲警報

当時東京では敵の飛行機が富士山に向かってくると警戒警報、富士山まで来た飛行機がさらに東京方面に向かってくると空襲警報が出されました。警戒警報が鳴ると人々は明かりが外にもれないようにランプに黒い布や厚紙をかぶせ、空襲警報が鳴ると明かりを完全に消し、警報が解除されるまで防空壕に避難しました。

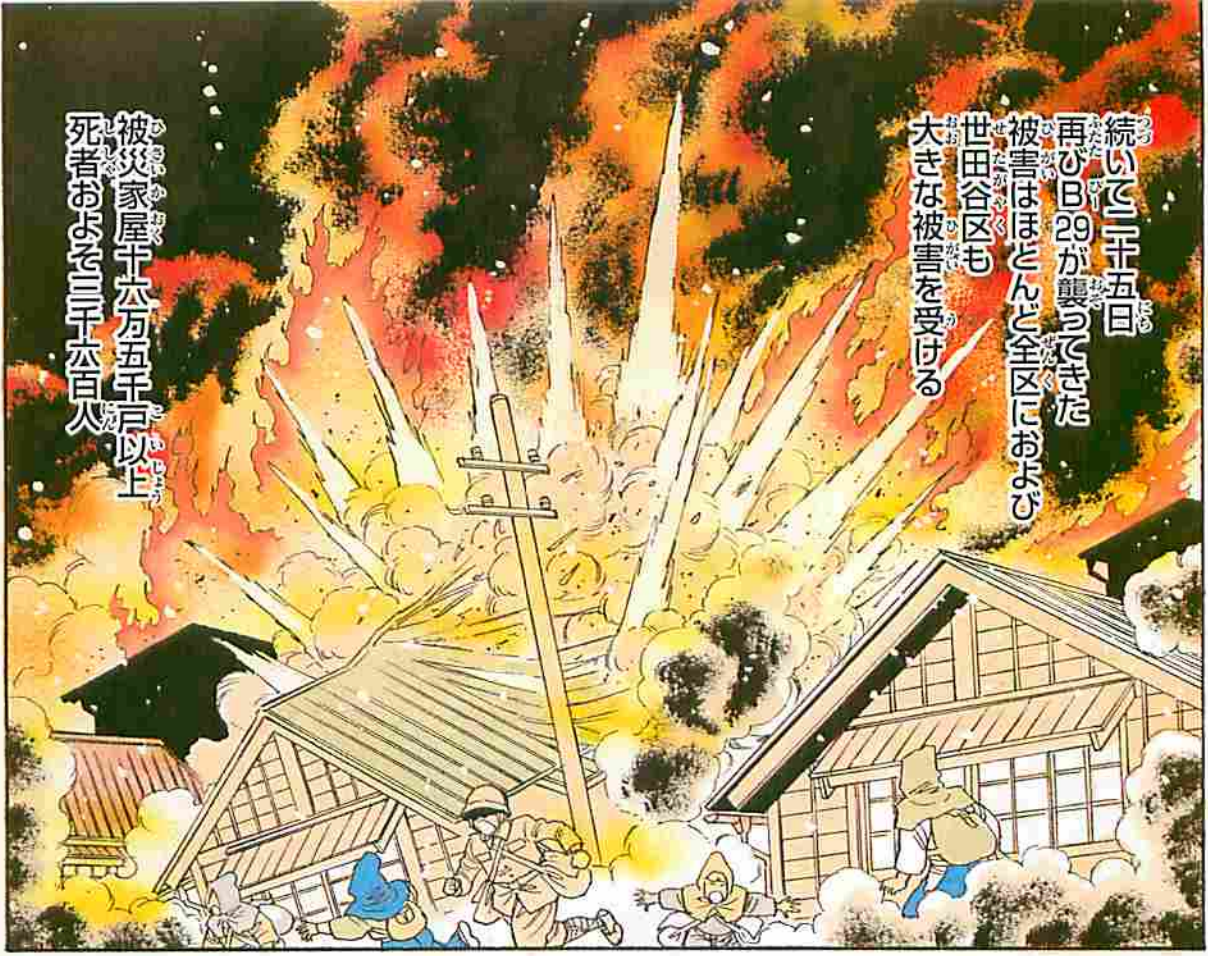
東京大空襲では空襲の約一時間半前に警戒警報が出されましたが、すぐに解除されました。そして空襲警報が出されたのは、最初の爆弾が落とされてから七分後でした。このおくれが多くなる人間の生死を分ける決定的な時間となりました。



▲B29は富士山を目標に東京に飛来した

続いて二十五日、再びB29が襲ってきた。被害はほとんど全区におよび世田谷区も大きな被害を受ける

被災家屋千六万五千戸以上、死者およそ二千六百人



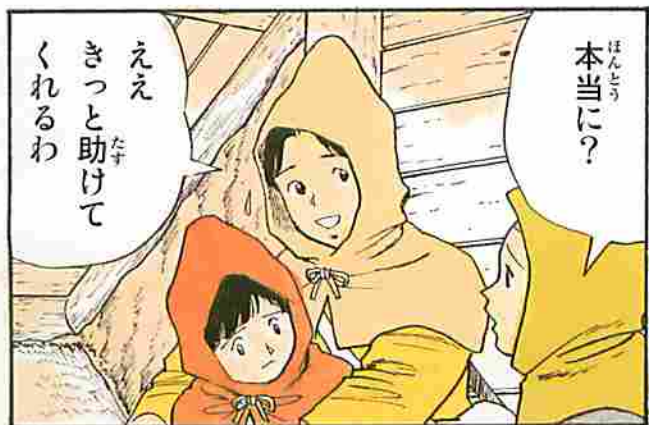
あかつき号はだいじょうぶかなあ？

心配ない兵隊さんがついているから



すごい音だね！

外は炎の地獄だろう



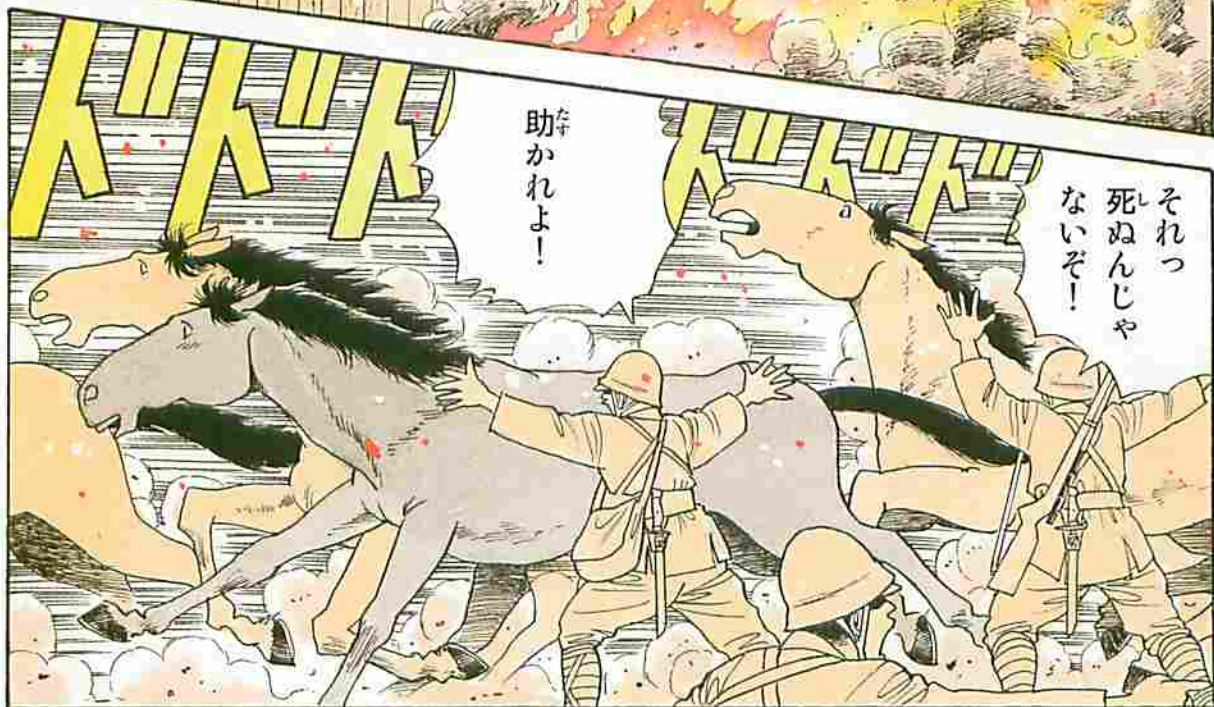
ほんとうに？

ええ、きっと助けてくれるわ



馬を
厩舎から
出せっ！

たすなを
切れっ
馬を
放すんだ！



それっ
死ぬんじや
ないぞ！

助け
かれよ！

防空壕

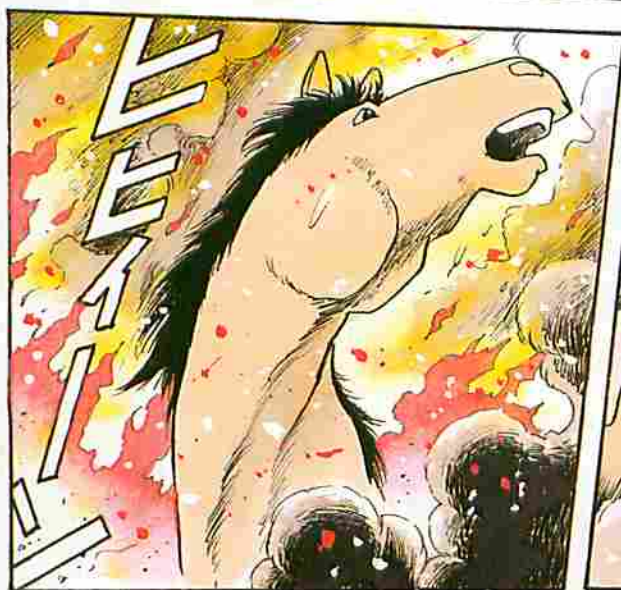
空襲警報が鳴ると人々は防空壕で敵機が去るのを待ちました。防空壕には家の中から入れる床下式、庭にほった縦穴式、石がきを利用した横穴式のものがありました。はじめは穴をほっただけの簡単なものでしたが、空襲がはげしくなり防空壕の中で夜を明かすことが増えてくると、「すのこ」を置いてふとんをしいたり、カベに寄りかかるよう板紙を貼り付けるなどの工夫がされるようになりました。

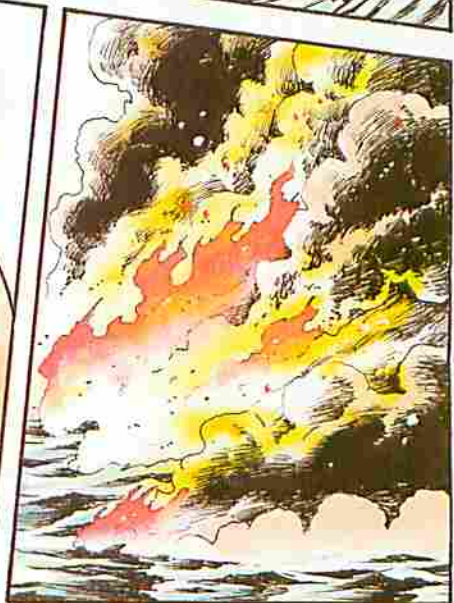
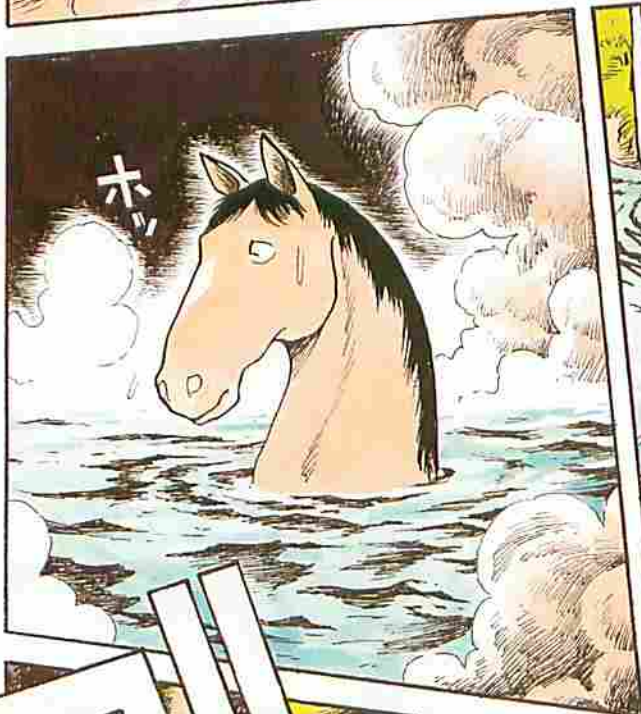
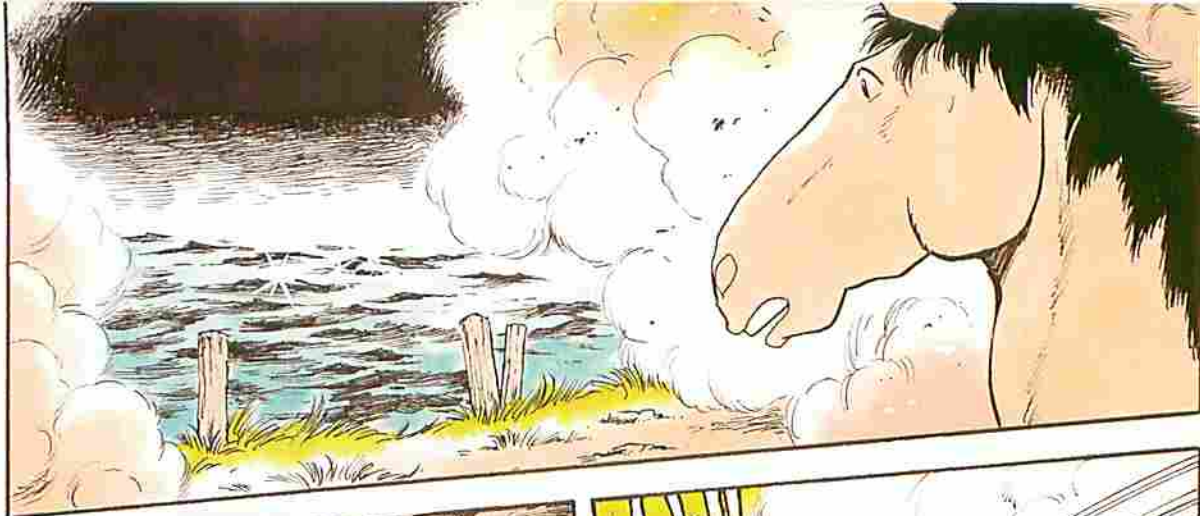


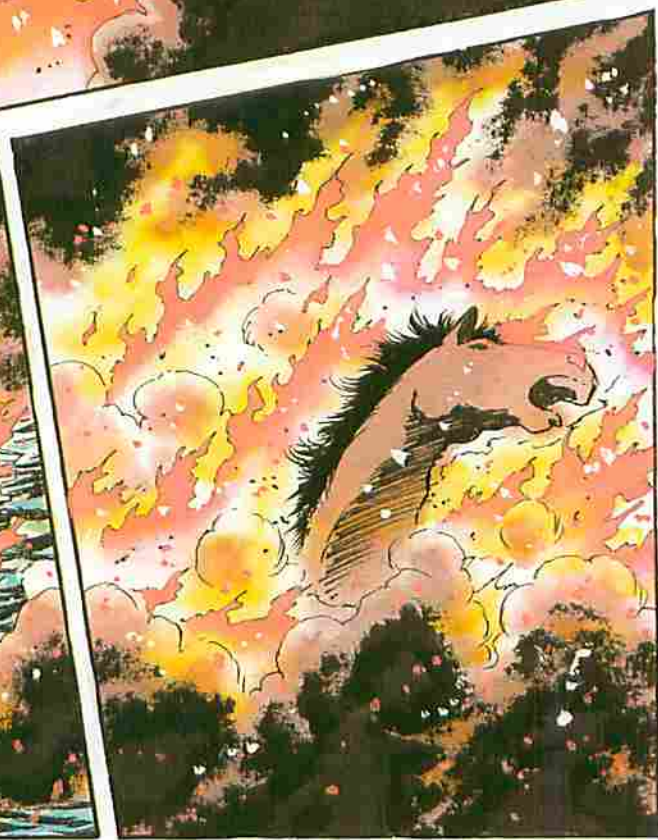
▲床下の防空壕にかくれる子どもたち



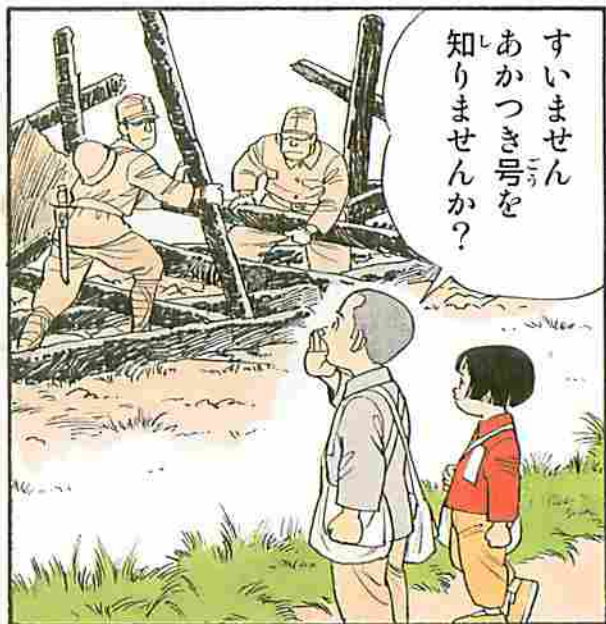
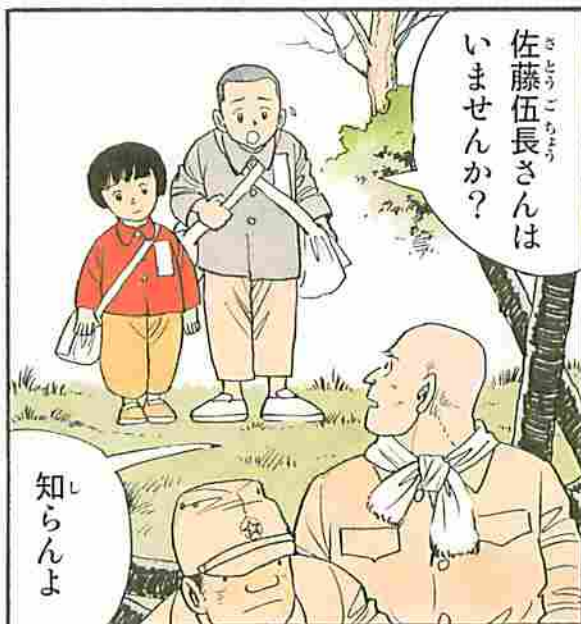
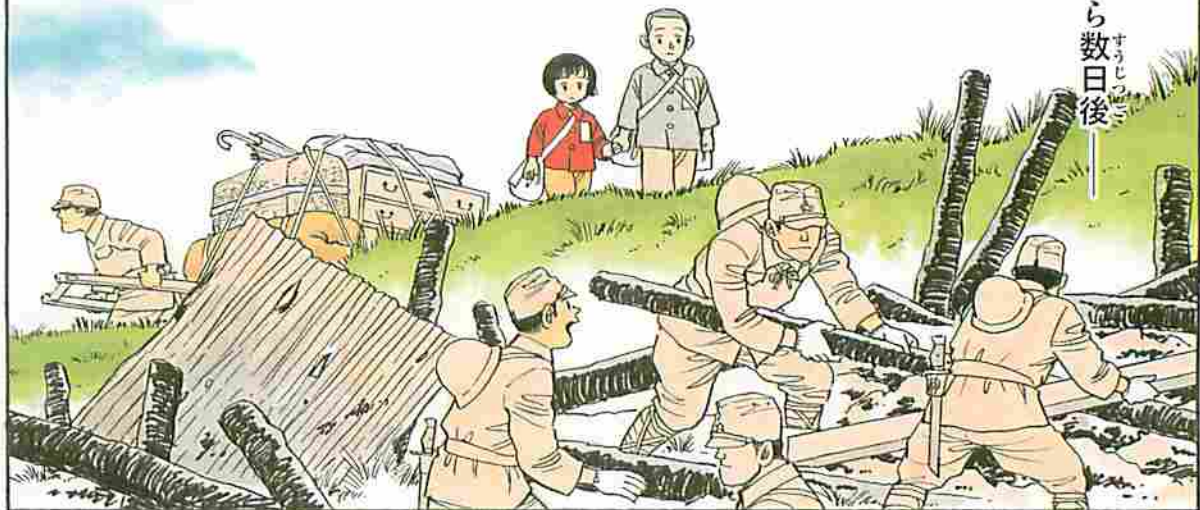
あかつき！
生きていろよ！
いけっ







空襲から数日後



山の手地域への空襲

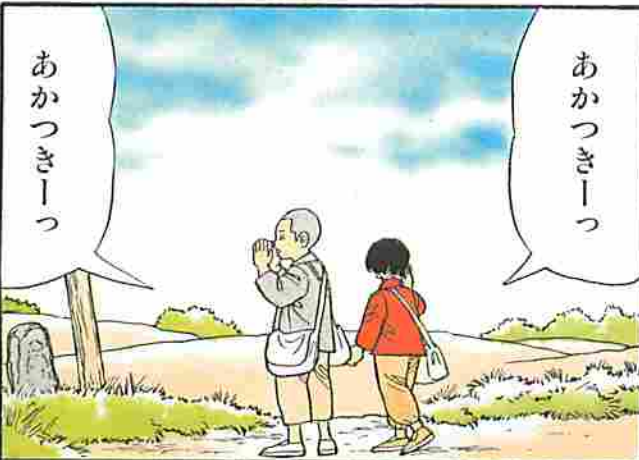
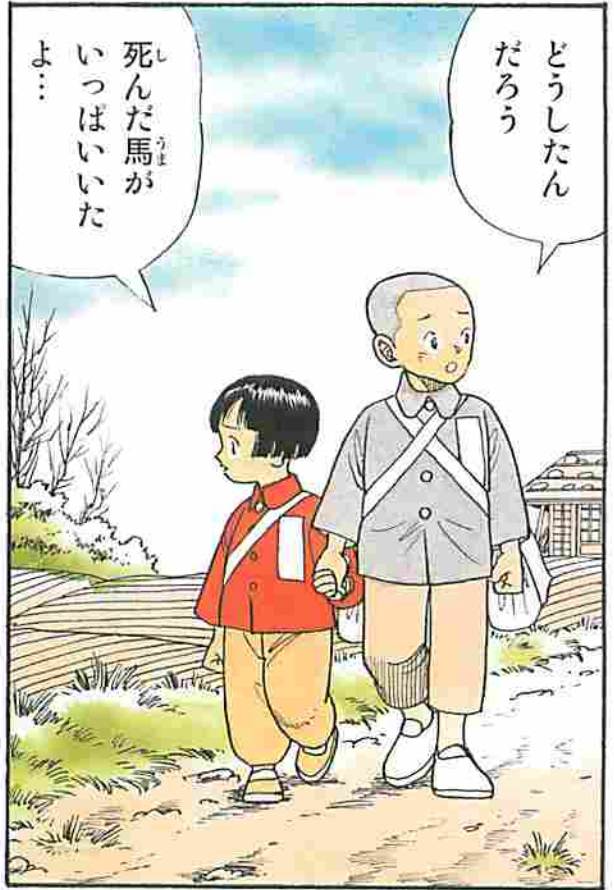
B 29による攻撃は、三月十日に東京の下町を焼きつくした大空襲のあと、さらに世田谷や杉並など山の手地域へと拡大していきました。

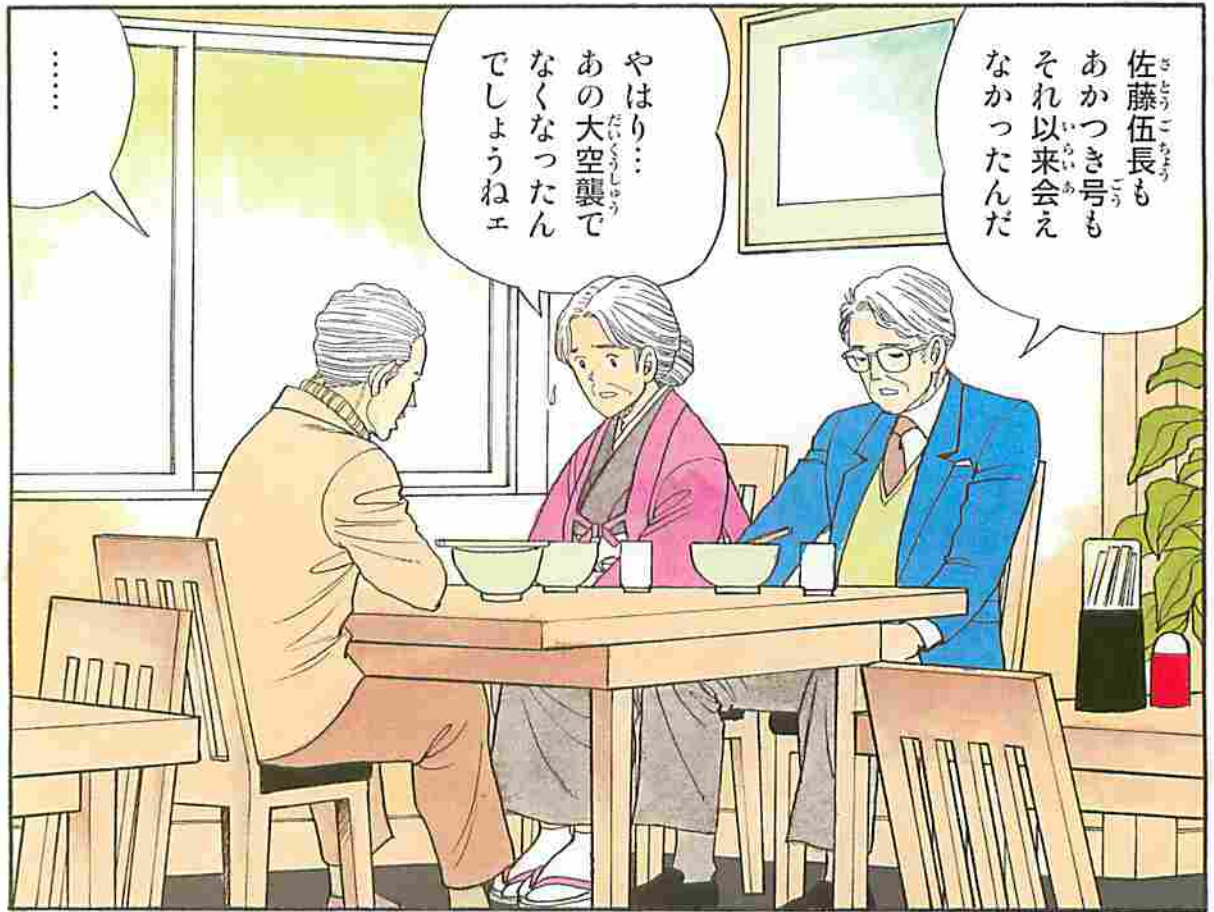
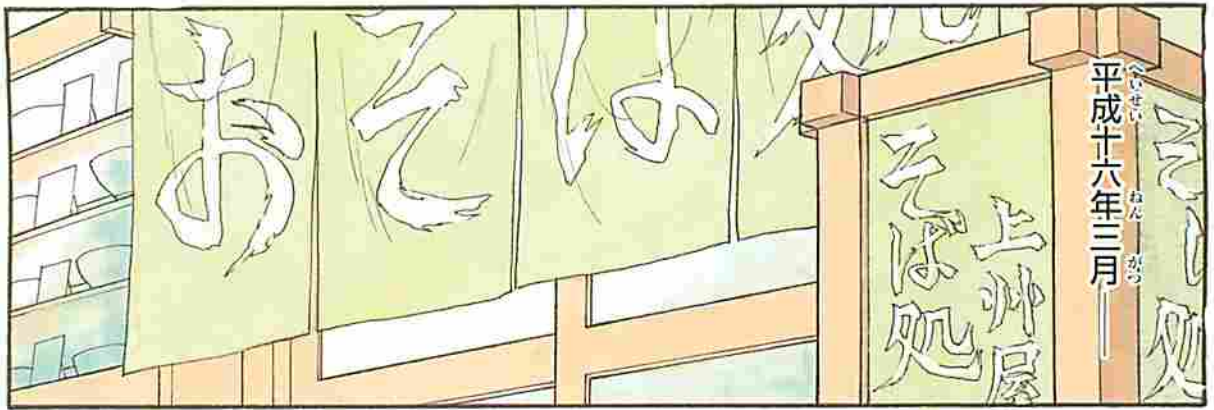
山の手地域が大きな被害を受けたのは五月二十四日の夜明け前。二時間あまりの間に、三千六百トンの焼夷弾が投下されました。さらに翌二十五日の深夜にも焼け残った地域に向けて、三千二百トンの焼夷弾が投下されました。

被害は山の手地域を中心に全都に広がっていきましました。



▲東京だけでなく全国各地が夜間空襲をうけた



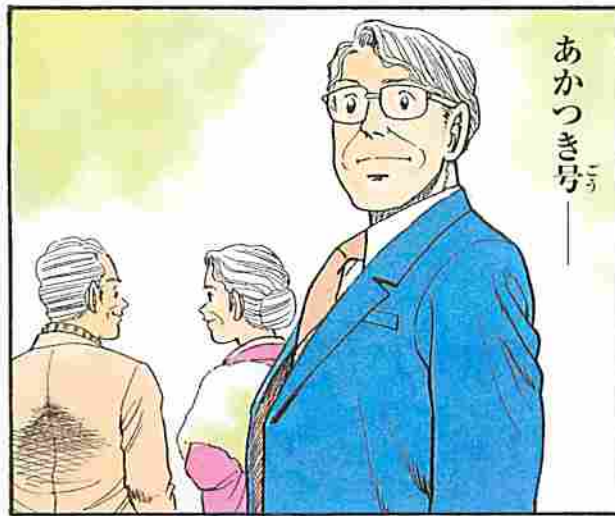




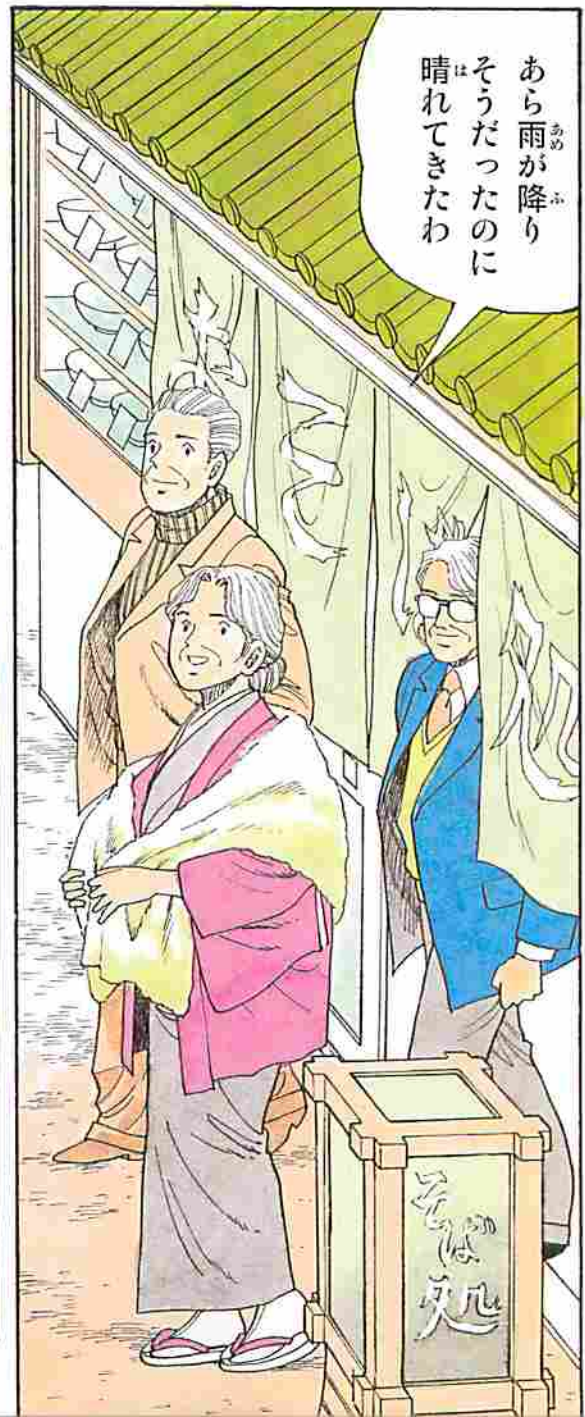
うま じらみよう
馬の寿命が
どれくらいかは
知らないが…

てんじゅ
天寿を
まっとうして
死んだと
おも
思いたい

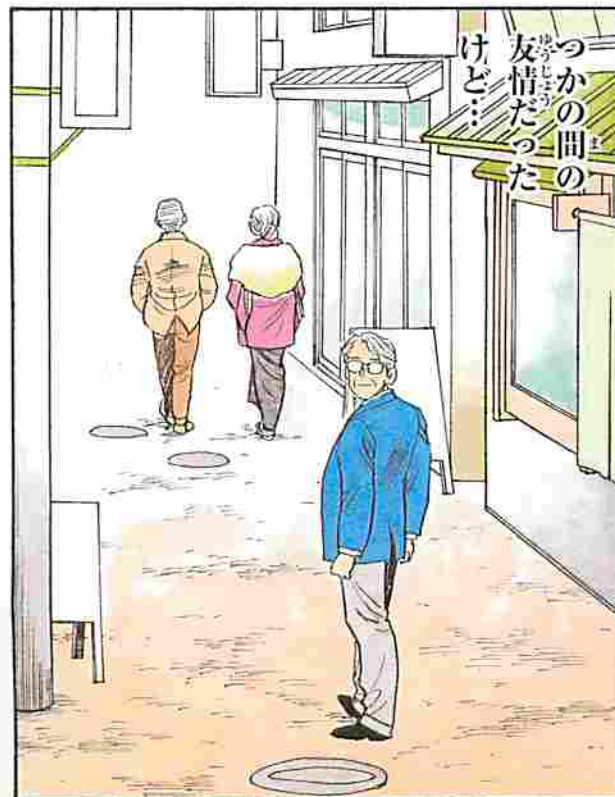
…ん
そうだな



あかつき号



あめ
あら雨が降り
そうだったのに
は
晴れてきたわ



つかの間の
友情だった
けど…



わたしは
一生君を
忘れない

戦争写真館

●空襲のあとの焼け野原には生き別れた家族に安否を知らせる立て札が立った。



●戦争が激しくなると、中学生以上の生徒は学校の代わりに武器を作る工場に通わなければならなくなった。

●疎開先でも野菜や米は手に入りづらくなり、少ないたのしみだった食事もだんだん粗末なものになっていった。



●男性が戦場へ行ってしまい、国内では救護活動、農作業などなんでも女性がやらなければならなかった。鉄砲をもつての軍事訓練まであった。



●食べ物が出なかった日は疲れ果てて道ばたで寝ているしかなかった浮浪児たち。家族や親せきもいなくなり、ひとりで必死に生きていた。



空襲などにあつたおもな町

1942年(昭和17)の4月から戦争が終わつた1945年(昭和20)の8月までのあいだ、日本国内の以下のような町が空襲や艦砲射撃などを受けました。そして、その多くの町が何回も空襲を受けました。このほかにも規模の小さなもの、軍の施設が爆撃されたものなど、実際にはもっと多くの町が空襲や艦砲射撃などを受け、全体で50万人以上^[注1]の一般住民が亡くなりました。

▼北海道 函館市 小樽市 苫小牧市 網走市 留萌市 旭川市 室蘭市 釧路市 帯広市 根室市 本別町 ▼青森県 青森市 八戸市 ▼岩手県 盛岡市 花巻市 釜石市 宮古市 一関市 ▼宮城県 仙台市 石巻市 塩釜市 ▼秋田県 秋田市 ▼山形県 酒田市 ▼福島県 福島市 郡山市 いわき市 ▼茨城県 水戸市 日立市 土浦市 高萩市	▼栃木県 宇都宮市 足利市 栃木市 鹿沼市 ▼群馬県 前橋市 高崎市 桐生市 伊勢崎市 太田市 ▼埼玉県 さいたま市 川越市 熊谷市 川口市 ▼千葉県 千葉市 銚子市 船橋市 館山市 木更津市 松戸市 市川市 ▼東京都 区部 八王子市 立川市 武蔵野市 ▼神奈川県 横浜市 川崎市 平塚市 藤沢市 小田原市 横須賀市 鎌倉市	▼新潟県 新潟市 長岡市 ▼富山県 富山市 高岡市 ▼福井県 福井市 敦賀市 ▼山梨県 甲府市 ▼長野県 長野市 上田市 ▼岐阜県 岐阜市 大垣市 ▼静岡県 静岡市 浜松市 沼津市 磐田市 三島市 伊東市 島田市 ▼愛知県 名古屋市 豊橋市 岡崎市 一宮市 瀬戸市 豊川市 半田市 春日井市 津島市 ▼三重県 津市 四日市市	伊勢市 桑名市 上野市 鈴鹿市 松阪市 ▼滋賀県 大津市 彦根市 長浜市 ▼京都府 京都市 舞鶴市 ▼大阪府 大阪市 堺市 豊中市 高槻市 吹田市 東大阪市 守口市 岸和田市 池田市 泉大津市 枚方市 ▼兵庫県 神戸市 姫路市 尼崎市 明石市 西宮市 芦屋市 伊丹市 相生市 ▼奈良県 奈良市 ▼和歌山県 和歌山市 海南市	有田市 御坊市 田辺市 新宮市 串本町 那智勝浦町 下津町 ▼鳥取県 米子市 ▼岡山県 岡山市 玉野市 ▼広島県 広島市 呉市 福山市 ▼山口県 下関市 宇部市 山口市 周南市 防府市 下松市 岩国市 小野田市 光市 ▼徳島県 徳島市 ▼香川県 高松市 ▼愛媛県 松山市 今治市 宇和島市 八幡浜市 新居浜市 ▼高知県 高知市	▼福岡県 北九州市 福岡市 大牟田市 久留米市 ▼佐賀県 佐賀市 ▼長崎県 長崎市 佐世保市 島原市 諫早市 大村市 ▼熊本県 熊本市 荒尾市 宇土市 八代市 人吉市 水俣市 ▼大分県 大分市 別府市 中津市 日田市 佐伯市 ▼宮崎県 宮崎市 延岡市 日南市 都城市 高鍋町 ▼鹿児島県 鹿児島市 川内市 串木野市 阿久根市 指宿市	国分市 西之表市 垂水市 鹿屋市 枕崎市 山川町 頰娃町 知覧町 東市来町 始良町 加治木町 ▼沖縄県 ^[注2] 那覇市 名護市 沖繩市 浦添市 糸満市 平良市 石垣市 本部町 与那城町 嘉手納町 西原町 与那原町 南風原町 伊江村 今帰仁村 読谷村
--	--	---	--	--	---	---

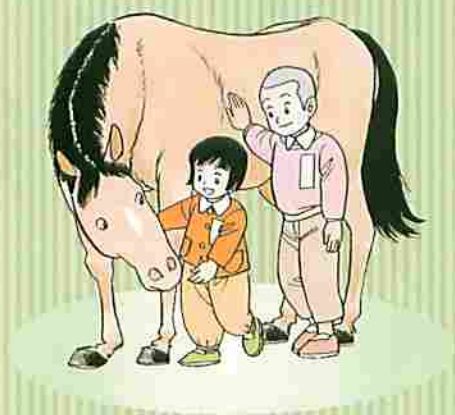
[注1] 沖縄県では、県下で地上戦が行われ、軍人以外の一般住民の死亡者が約10万人にもおよびました。このため「空襲や艦砲射撃など」に限定した被災状況を把握することがむずかしいので、

[50万人以上]の中には沖縄県の人数は含まれていません。

[注2] 沖縄県については、規模の大きかった1944年(昭和19)10月10日の空襲を受けたおもな市町村を記載しました。

この物語は戦争の悲惨さを次の世代に伝えるために、東京大空襲の事実に基づいて制作したフィクションです。したがって、この物語に登場した人物や団体などは実在しません。

写真提供・毎日新聞社
共同通信社
昭和館



この本を読んで、感想や作文をお寄せください

社団法人 日本戦災遺族会

〒102-0083 東京都千代田区麹町1-3 ダイアン麹町ビル4F TEL.03-3264-5287

制作協力 / 株式会社NHK情報ネットワーク